| 旭儿 | 工業高等 | 5 安门 1 子仪 | 開講年度 | 令和06年度 (2 | <u> </u> | 1.2 | 業科目 | 歴史 | | | |
|--|--------------------------|--|--|---|--|--|--|--|--|--|--|
| | <u>::ユスに、</u> 礎情報 | | , , , , , , , , | | , | | | - | | | |
| <u>- </u> | | 007 | | | 科目区分 | | 一般 / 必 | | | | |
| 授業形態 | ŧ | 授業 | | | 単位の種別と単 | 位数 | 履修単位: 2 | | | | |
| 開設学科 | ļ | 電気情報工 | 学科(2021年度) | 以降入学者) | 対象学年 | | 3 | | | | |
| 開設期 | | 通年 | | | 週時間数 | | 2 | | | | |
| 教科書/勃 | | | 洽(帝国書院)/最新 | 所世界史図説タペス | ストリー(帝国書院) | トリー(帝国書院) | | | | | |
| 旦当教員 | | 根本 聡 | | | | | | | | | |
| 到達目 | 標 | | | | | | | | | | |
| 的歴史的 る。 |]観点から理 | 活文化や宗教に 解することがで | こついて、地理的歴 ごきる。 3.諸国家の | を と諸文明の相互関係 と | なすることができる 系や文化の多様性に | 。 2.民 こついて | 族問題や国 日本との | 家・文明間の諸問 関連をふまえて理 | 題について、地球 解することができ | | |
| レーフ | リック | | T | | T | | | 1 | | | |
| | | | 理想的な到達レ/ | ベルの目安 | 標準的な到達し | | | 未到達レベルの目安 | | | |
| 評価項目1 | | | 世界の各地域の空ついて説明する。 | 生活文化や宗教に ことができる。 | ついての基本用 ができる。 | 世界の各地域の生活文化や宗教についての基本用語を理解することができる。 | | | 世界の各地域の生活文化や宗教についての基本用語を理解することができない。 | | |
| 評価項目 | 12 | | 民族問題や国家・文明間の諸問題 について説明することができる。 | | 民族問題や国家 について基本用 ができる。 | 民族問題や国家・文明間 について基本用語を理解 ができる。 | | 国 民族問題や国家・文明間の記 について基本用語を理解する ができない。 | | | |
| 評価項目 | | T | 文化の多様性について説明するこ とができる。 | | 文化の多様性にとができる。 | 文化の多様性について理解するこ | | 文化の多様性の意味を理解することができない。 | | | |
| | | 項目との関係 | • | | | | | | | | |
| | | 教育目標④ 本科 | 刊の教育目標③ | | | | | | | | |
| 教育方: | 法 等 | | (文明の基本性格を | Imira-t- | | | | | | | |
| 既要 | | いる一を把 第四に、近 第五に、日 | 現代史の国際関係を包括的にとらえて、現代の諸問題に対する歴史的認識力を高める。 本史との関係をつねに念頭において考察し、日本人から見た世界史という観点を重視する。 華文明とヨーロッパ文明の比較を念頭に授業を進める。その際、たえず、世界と日本の状況を対比しながら | | | | | | | | |
| | | | 華文明とヨーロツ | パ文明の比較を念 | 頭に授業を進める | 。その際 | *、たえず | 、世界と日本の状況 | 兄を対比しながら | | |
| 授業の進 | め方・方法 | 、考察を深 第二に、ア 第三に、帝 響について | める。 7メリカとロシアの 7国主義の諸問題に 考察する。 | 世界史における意 ついて理解を深め | 義について、両国 る。その際に、西 | が日本に 注の衝撃 | こ及ぼした 堂、すなわ | 、世界と日本の状況 影響をふまえて考覧 ち欧米列強が他ので 相互に関連づけて打 | 察する。 文明に及ぼした景 | | |
| 注意点 | | 、第三条のでは、第三条のでは、第三条のでは、第三条のでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で | される。 アメリカとロシアの アメリカとロシアの ドラリニ義の諸問題に 「考察する。 「一つの世界大戦の原」 「んにち起こってい でな分野に関心を | 世界史における意ついて理解を深め 因と結果について る時事問題がなぜ もつことが望まれ | 義について、両国 る。その際に、西 理解を深める。以 そのような事態に | が日本に 洋の衝雪 上の主要 なってい | □及ぼした 毫、すなわ ፼な四点を いるか、原 | 影響をふまえて考察 ち欧米列強が他の3 相互に関連づけて打 因と背景を学ぶこの | 察する。 文明に及ぼした影 受業を進める。 | | |
| 主意点 受業の | 属性・履 | 、 | がある。 アメリカとロシアの 原国主義の諸問題に 考察する。 一つの世界大戦の原 んにち起こってい なな分野に関心を ままで 喚起された諸 | 世界史における意ついて理解を深め 因と結果について る時事問題がなぜ もつことが望まれ | 義について、両国 る。その際に、西 理解を深める。以 そのような事態に る。 ・調査し、自ら考 | が日本は 洋の衝撃 <u>上の主要</u> なってい 察する姿 | □及ぼした 毫、すなわ ፼な四点を いるか、原 | 影響をふまえて考り ち欧米列強が他の3 相互に関連づけて打 因と背景を学ぶこ。 られる。 | 察する。 文明に及ぼした影 受業を進める。 とが重要である。 | | |
| 主意点 受業の | | 、 | される。 アメリカとロシアの アメリカとロシアの ドラリニ義の諸問題に 「考察する。 「一つの世界大戦の原」 「んにち起こってい でな分野に関心を | 世界史における意ついて理解を深め 因と結果について る時事問題がなぜ もつことが望まれ | 議について、両国 る。その際に、西 理解を深める。以 そのような事態に る。 | が日本は 洋の衝撃 <u>上の主要</u> なってい 察する姿 | □及ぼした 毫、すなわ ፼な四点を いるか、原 | 影響をふまえて考察 ち欧米列強が他の3 相互に関連づけて打 因と背景を学ぶこの | 察する。 文明に及ぼした影 受業を進める。 とが重要である。 | | |
| 注意点 受 業 の。 〕アク・ | 属性・履 | 、 | がある。 アメリカとロシアの 原国主義の諸問題に 考察する。 一つの世界大戦の原 んにち起こってい なな分野に関心を ままで 喚起された諸 | 世界史における意ついて理解を深め 因と結果について る時事問題がなぜ もつことが望まれ | 義について、両国 る。その際に、西 理解を深める。以 そのような事態に る。 ・調査し、自ら考 | が日本は 洋の衝撃 <u>上の主要</u> なってい 察する姿 | □及ぼした 毫、すなわ ፼な四点を いるか、原 | 影響をふまえて考り ち欧米列強が他の3 相互に関連づけて打 因と背景を学ぶこ。 られる。 | 察する。 文明に及ぼした景 受業を進める。 とが重要である。 | | |
| 注意点 受 業 の。 〕アク・ | 属性・履 | 、第三条 第二についこ 第二についこ 第二ににこ、 第二三にの区分 との区分 | でメリカとロシアの に国主義の諸問題に 考察する。 一つの世界大戦の原 しんにち起こってい なな分野に関心を まずで喚起された諸 | 世界史における意ついて理解を深め 因と結果について る時事問題がなぜ もつことが望まれ | 義について、両国 る。その際に、西 理解を深める。以 そのような事態に る。 ・調査し、自ら考 | が日本に詳の衝動 | で 及ぼした で すなわ 要な四点を いるか、原 受勢が求め | 影響をふまえて考察 ち欧米列強が他の 対相互に関連づけて打 因と背景を学ぶこの られる。 | 察する。 文明に及ぼした景 受業を進める。 とが重要である。 | | |
| 注意点 受 業 の。 〕アク・ | 属性・履 | 大学院 学院 では、 第第二について、このでは、 第第一ににていて、 第第二にに、 第第二にに、 第第二にで、 第第二にで、 修上の区分 ニング | さいる。 アメリカとロシアの ドメリカとロシアの ドメリカとの諸問題に 「考察する。 「一つの世界大戦の原」 「んにち起こってい 「なな分野に関心を 発業で喚起された諸 | 世界史における意でいて理解を深め 因と結果について る時事問題がなぜ もつことが望まれ 問題を、自ら探求 | 義について、両国 る。その際に、西 理解を深める。以 そのような事態に る。 ・調査し、自ら考 | が日本は 洋の衝動 上の主要なってい 一次する姿 なってい 変する姿 を 歴史学 | で 及ぼした できな できな でいるか、 原 で で の で で で で で で で で で で で で で で で で | 影響をふまえて考察をいまえて考察をのまえて考察をのまえては、相互に関連づけて打団と背景を学ぶこのられる。 | 察する。 文明に及ぼした景 受業を進める。 とが重要である。 5る教員による授 | | |
| 注意点 受 業 の。 〕 アク・ | 属性・履 | 大 大 大 大 大 大 大 大 | が 対 対 対 対 対 対 対 が が が が が が が が が が が が が | 世界史における意でいて理解を深め はと結果について はる時事問題がなぜである。 はいますが望まれば はいますがは、 はいまがは、 はいまがはいまがは、 はいまがはいまがは、 はいまがは、 はいまがはいまがはいまがはいまがはいまがはいまがはいまがはいまがはいまがはいまが | 義について、両国 る。その際に、西 理解を深める。以 そのような事態に る。 ・調査し、自ら考 | が日本は洋の衝動 上の主要なってい 察する 登 歴史する | で で で で で で で で で で で で で で | 影響をふまえて考察をかまえて考察をかまえて考察をかまえてものが他のでは 相互に関連づけて打 因と背景を学ぶこの られる。 | 察する。 文明に及ぼした景 受業を進める。 とが重要である。 ある教員による投 の関係について3 | | |
| 注意点 受 業 の。 〕アク・ | 属性・履 | 大 大 大 大 大 大 大 大 | さいる。 アメリカとロシアの ドメリカとロシアの ドメリカとの諸問題に 「考察する。 「一つの世界大戦の原」 「んにち起こってい 「なな分野に関心を 発業で喚起された諸 | 世界史における意でいて理解を深め はと結果について はる時事問題がなぜである。 はいますが望まれば はいますがは、 はいまがは、 はいまがはいまがは、 はいまがはいまがは、 はいまがは、 はいまがはいまがはいまがはいまがはいまがはいまがはいまがはいまがはいまがはいまが | 義について、両国 る。その際に、西 理解を深める。以 そのような事態に る。 ・調査し、自ら考 | が日本は洋の衝動 上の主要なってい 察する 登歴 歴史する とい 関連 歴解する に とい 学る に 四大 に かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょう かんしょく かんしょく かんしょく かんしょ かんしょく かんしょ かんしょ かんしん かんしん かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ | で で で で で で で で で で で で で で | 影響をふまえて考察をかまえて考察をかまえて考察をかまえてものが他のな相互に関連づけて打団と背景を学ぶこのられる。 □ 実務経験のも □ 実務経験のも □ まなび世界と日本 □ および世界と日本 □ こついて理解するこ | 察する。 文明に及ぼした景 受業を進める。 とが重要である。 ある教員による授 の関係について3 | | |
| 主意点 受 業の 〕 アク・ | 属性・履 | 大学 では、 ・ 第字にについて、こでは、 ・ 第二にについて、こでは、 ・ 第第二にでいて、 ・ 第第二にでいて、 ・ 第第二にでいて、 ・ 第第二にでいて、 ・ 「を上の区分 ・ こができます。 ・ 「を上の区分 ・ 「という」とは、 ・ 「という。 ・ 「という、 ・ 「という。 ・ 「という。 ・ 「という、 ・ 「という、 ・ 「という。 ・ 「という。 ・ 「という、 ・ 「という、 ・ 「という。 ・ 「という。 ・ 「という、 ・ 「という、 ・ 「という、 ・ 「という、 ・ 「という、 ・ 「という、 ・ 「という。 ・ 「という、 ・ 「という、 ・ 「という。 ・ 「という。 ・ 「という。 ・ 「という、 ・ 「という。 ・ 「という。 ・ 「という。 ・ 「という、 ・ 「という、 ・ 「という。 ・ 「という、 ・ 「という、 ・ 「という、 ・ 「という。 ・ 「という、 ・ 「という、 ・ 「という、 ・ 「、 ・ 「という、 ・ 「 「 「 にっし、 ・ 「 「 にっし、 ・ 「 「 にっし | が 対 対 対 対 対 対 対 が が が が が が が が が が が が が | 世界史における意でいて理解を深め 因と結果について る時事問題がなぜ もつことが望まれ 問題を、自ら探求 | 義について、両国 る。その際に、西 理解を深める。以 そのような事態に る。 ・調査し、自ら考 | が日本は洋の衝動 上の主要なってい 察する 登歴 歴史する とい 関連 歴解する に とい 学る に 四大 に かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょう かんしょく かんしょく かんしょく かんしょ かんしょく かんしょ かんしょ かんしん かんしん かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ | で で で で で で で で で で で で で で | 影響をふまえて考察をかまえて考察をかまえて考察をかまえてものが他のでは 相互に関連づけて打 因と背景を学ぶこの られる。 | 察する。 文明に及ぼした景 受業を進める。 とが重要である。 ある教員による授 の関係について3 | | |
| 注意点 受 業 の。 〕アク・ | 属性・履ティブラー: | 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 | を対している。 「対しては、 | 世界史における意でします。 世界史における意でした 世界史における意図と結果について る時事問題がなぜもつことが望まれて 間題を、自ら探求関題を、自ら探求関 | 義について、両国 る。その際に、西 理解を深める。以 そのような事態に る。 ・調査し、自ら考 | が日本は消光のである。 は、これでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般 | で 及ぼした で で で で で で で で で で で で で で で で で で で | 影響をふまえて考察をかまえて考察をかまえて考察をかまえてものが他のな相互に関連づけて打団と背景を学ぶこのられる。 □ 実務経験のも □ 実務経験のも □ まなび世界と日本 □ および世界と日本 □ こついて理解するこ | 察する。 文明に及ぼした景 受業を進める。 とが重要である。 ある教員による授 の関係について とができる。 することができる | | |
| 注意点 受 業 の。 〕アク・ | 属性・履 | 大学 | を対している。 アメリカとロシアの 関主義する。 ・プの世界大戦の原 が、大戦の原 が、大が、大戦の原 が、大が、大が、大戦の原 が、大が、大戦の原 が、大が、大戦の原 が、大が、大戦の原 が、大が、大戦の原 が、大戦の原 が、大戦の原 が、大戦の原 が、大戦の原 が、大戦の原 が、大戦の原 が、大戦の原 が、大戦の原 が、大戦のに が、大戦のに が、大戦のに が、大戦の表 | 世界史における意 ついて理解を深め 因と結果について る時事問題がなぜ もつことが望まれ 問題を、自ら探求 課題 (1) | 義について、両国 る。その際に、西 理解を深める。以 そのような事態に る。 ・調査し、自ら考 | が日本は消光の電気を表している。 というでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 の | で で で で で で で で で で で で で で | 影響をふまえて考察をかまえて考察をかまえて考察をかまえてものが他のでは 相互に関連づけて打 因と背景を学ぶこの られる。 | 察する。 文明に及ぼした景 受業を進める。 とが重要である。 らる教員による授 の関係について とができる。 することができる 成立過程を理解 | | |
| 注意点 受 業 の。 〕アク・ | 属性・履ティブラー: | 大学 1 1 1 1 1 1 1 1 1 | を対している。 アメリカとロシアの 原国主義の諸問題に 考察する。 一つの世界大戦の原 んにち起こってい なな分野に関いを 変業で喚起された諸 「ICT 利用 歴業内容 を史学習の方法と 世界の宗教の特質 世界の宗教の特質 世界の宗教の特質 中華文明の特質(1 | 世界史における意 ついて理解を深め 因と結果について る時事問題がなぜ もつことが望まれ 問題を、自ら探求 課題 (1) (2) | 義について、両国 る。その際に、西 理解を深める。以 そのような事態に る。 ・調査し、自ら考 | が洋の一体は、大きな、変なが、は、は、大きな、変なが、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は | で で で で で で で で で で で で で で | 影響をふまえて考察をいまえて考察をいまえて考察をいまえても、相互に関連づけて打団と背景を学ぶこのられる。 □ 実務経験のも □ 実務経験のも こついて理解するこれででででは、このいて理解するこれでででででででででででです。 このいて理解するこれででででである。これでででである。これででは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは | 察する。 文明に及ぼした景 受業を進める。 とが重要である。 5る教員による投 の関係について3 とができる。 することができ 成立過程を理解 とができる。 | | |
| 主意点 受 業 の 〕 アク・ | 属性・履ティブラー: | 大学 | はある。 アメリカとロシアの 同国主義の諸問題に 著察する。 一つの世界大戦の原 にんにち起こっている なな分野に関いを 変革で喚起された諸 □ ICT 利用 歴史学習の方法と 世界の宗教の特質 世界の宗教の特質 ・華文明の特質(1 | 世界史における意 ついて理解を深め 因と結果について る時事問題がなぜ もつことが望まれ 問題を、自ら探求 (1) (2) | 義について、両国 る。その際に、西 理解を深める。以 そのような事態に る。 ・調査し、自ら考 | が洋となっている。世界の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の | 及ばない。 要なるかが求め 型のとのけるでのア大が明のア大がでいる。にはない。 でのでのでは、 でのでのでは、 でのでのでは、 ででのでは、 ででのでは、 ででのでは、 ででででする。には、 でででは、 ででででする。には、 ででできる。には、 ででは、 ででできる。には、 でいきる。 でいき。 でいき。 でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ ・ ・ ・ でいきる。 ・ ・ ・ ・ でいき。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 影響をふまえて考えた。 ち欧米列強が他のな 相互に関連づけて打 因と背景を学ぶこの られる。 □ 実務経験のあ および世界と日本 こついて理解するこ で問題について理解 も高いて理解するこ ででは、この特質を理解する での特質を理解する でのは、この特質を理解する でのは、この特質を理解する でのは、このは、このは、このは、このは、このは、このは、このは、このは、このは、こ | 察する。 文明に及ぼした景 受業を進める。 とが重要である。 とが重要である。 の関係についても とができる。 することができる。 は立過程を理解 とができる。 ことができる。 以降の歴史を理解 | | |
| 主意点 受業の ファク・ 受業計 | 属性・履ティブラー: | 大学 | は かる。 アメリカとロシアの アメリカとロシアの アメリカとロシアの 国主義する。 では、 一つの世界大戦の原 ない分野に関いている 大変で喚起された諸 ロード | 世界史における意 ついて理解を深め 因と結果について る時事問題がなぜ もつことが望まれ 問題を、自ら探求 問題 (1) (2) .) .) | 義について、両国 る。その際に、西 理解を深める。以 そのような事態に る。 ・調査し、自ら考 | が洋となっている。世界の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の | 及ばない。 要なるかが求め 型のとのけるでのア大が明のア大がでいる。にはない。 でのでのでは、 でのでのでは、 でのでのでは、 ででのでは、 ででのでは、 ででのでは、 ででででする。には、 でででは、 ででででする。には、 ででできる。には、 ででは、 ででできる。には、 でいきる。 でいき。 でいき。 でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ でいきる。 ・ ・ ・ ・ でいきる。 ・ ・ ・ ・ でいき。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | 影響をふまえて考えた。 ち欧米列強が他のなける 相互に関連づけて打ちます。 のいて理解するこでは はいて理解するこでは はいて理解するこでは はいて理解するこでは はいて理解するこでは はいて理解するこでは はいて理解するこでは はいて理解するこでは はいて理解するこでは はいては はいては はいては はいては はいては はいては はいては はい | 察する。 文明に及ぼした景 受業を進める。 とが重要である。 とが重要である。 の関係についても とができる。 することができる。 は立過程を理解 とができる。 ことができる。 以降の歴史を理解 | | |
| 主意点 受業の ファク・ 受業計 | 属性・履ティブラー: | Record | は かる。 アメリカとロシアの アクリカ と ロシアの アクリカ と ロシアの | 世界史における意 ついて理解を深め 因と結果について る時事問題がなぜ もつことが望まれ 問題を、自ら探求 課題 (1) (2) .) .) | 義について、両国 る。その際に、西 理解を深める。以 そのような事態に る。 ・調査し、自ら考 | が詳 上な 察 過 歴解 四 現。 農る 中 現 メる リ アする アする アする アする アする アする アする アする | 及すが、 で、 | 影響をふまえて考えた。 ち欧米列強が他のな 相互に関連づけて打 因と背景を学ぶこの られる。 □ 実務経験のあ および世界と日本 こついて理解するこ で問題について理解 も高いて理解するこ ででは、この特質を理解する での特質を理解する でのは、この特質を理解する でのは、この特質を理解する でのは、このは、このは、このは、このは、このは、このは、このは、このは、このは、こ | 察する。 文明に及ぼした景 受業を進める。 とが重要である。 とが重要である。 ある教員による授 の関係について とができる。 することができる。 ことができる。 以降の歴史を理解 することができる | | |
| 主意点 受業の ファク・ 受業計 | 属性・履ティブラー: | Record | は、 | 世界史における意 ついて理解を深め 因と結果について る時事問題がなぜ もつことが望まれ 問題を、自ら探求 課題 (1) (2) 。) (1) (2) 。) | 義について、両国 る。その際に、西 理解を深める。以 そのような事態に る。 ・調査し、自ら考 | が洋 上 な 察 し | 及す 型 | 影響をふまえて考察をいまえて考察をいまえて考察をいまえて表現が他のでは 相互に関連づけて打 因と背景を学ぶこの られる。 | 察する。 文明に及ぼした景 受業を進める。 とが重要である。 とが重要である。 の関係について とができる。 することができる。 以降の歴史を理解 することができる。 | | |
| 主意点 受業の アク・ | 属性・履ティブラー: | 株別 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大 | はないのは、 | 世界史における意 ついて理解を深め 因と結果について る時事問題がなぜ もつことが望まれ 問題を、自ら探求 には、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 | 義について、両国 る。その際に、西 理解を深める。以 そのような事態に る。 ・調査し、自ら考 | が洋 上 な 察 し | 及する 要なる かすが求め 型のとのけが 遊でのア大が合 でので衆 文 を を を を の の の の の の の の の の の の の | 影響をふまえて考えた。 おと背景を学ぶこの られる。 実務経験のを まなび世界と日本 こついて理解するこれ で問題について理解するこれ ではいて理解するこれ ではいて理解する ではいて理解するこれ ではいて理解するこれ ではいて理解するこれ ではいて理解するこれ ではいて理解する ではいて理解するこれ ではいて理解するこれ ではいて理解するこれ ではいて理解するこれ ではいて理解する ではいてはいてはいてはいてはいてはいてはいてはいてはいてはいてはいてはいてはいては | 察する。 文明に及ぼした景 受業を進める。 とが重要である。 とが重要である。 の関係について とができる。 することができる。 以降の歴史を理解 することができる。 | | |
| 主意点 受業の ファク・ 受業計 | 属性・履ティブラー: | ・ 第第第 の・ 第第第 の・ 1 の・ 1 の・ 2 を、、い、、・ 2 の・ 3 の・ 3 の・ 4 の・ 5 の・ 7 の 8 の 9 の 1 の 1 の 1 の 2 の 3 の 4 の 5 の 5 の 7 の 8 の 9 の | は、カラックのでは、カラックのでは、カラックのでは、カラックのでは、大戦の原に、大戦の原に、大戦の原に、大きなで喚起された。 「は、大なな、で喚起された。」 「ICT 利用 「ICT 利用 「「「「「「「「「「「」」」」 「「「「「」」」 「「「「「「」」 「「「「「」」 「「「「「」」 「「「「」」 「「「「」」 「「「「」」 「「「「」」 「「「」」 「「「」」 「「」 「「 「 | 世界史における意 でついて理解を深め をは果について ではまりでするです。 ではまりでするです。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、 | 義について、両国 る。その際に、西 理解を深める。以 そのような事態に る。 ・調査し、自ら考 | が洋上なっている。 と 学る宗に 民と文代リこ リーロにと ラース は 要 は と 学る宗に 民と文代リこ リーロにと ラース かんりょう ア・コース の こう と かんり こり かんり こう こくこう こく ア・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス | 及する。 できない できない できない できない できない できない できない できない | 影響をふまえて考えた。 おと背景を学ぶこの られる。 実務経験のを まなび世界と日本 こついて理解するこれ で問題について理解するこれ ではいて理解するこれ ではいて理解する ではいて理解するこれ ではいて理解するこれ ではいて理解するこれ ではいて理解するこれ ではいて理解する ではいて理解するこれ ではいて理解するこれ ではいて理解するこれ ではいて理解するこれ ではいて理解する ではいてはいてはいてはいてはいてはいてはいてはいてはいてはいてはいてはいてはいては | 察する。 文明に及ぼした景 受業を進める。 とが重要である。 とが重要である。 の関係について とができる。 することができる。 は立過程を理解 ととができる。 以降の歴史を理解 することができる。 義について理解 | | |
| 主意点 受業の アク・ | 属性・ <u>履</u> ティブラー: 画 | 修工 ・ 第第第の ・ 第第第の ・ 第第第の ・ 上グ ・ 過週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週 | A | 世界史における意 でついて理解を深め をは果について ではまりでするです。 ではまりでするです。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、 | 義について、両国 る。その際に、西 理解を深める。以 そのような事態に る。 ・調査し、自ら考 | が洋上なっている。 と 学る宗に 民と文代リこ リーロにと ラース は 要 は と 学る宗に 民と文代リこ リーロにと ラース かんりょう ア・コース の こう と かんり こり かんり こう こくこう こく ア・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス | 及す 型 | 影響をふまえて考えた。 おと背景を学ぶこの られる。 「国と背景を学ぶこの られる。 「実務経験のな」 「および世界と日本」 「および世界と日本」 「おいて理解するこででは、「はいて理解する。」 「おいて理解するこででは、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、「ないでは、」では、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、「ないでは、」では、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」では、「ないでは、」」は、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、「ないでは、」は、これでは、「ないでは、」は、これでは、これで | 察する。 文明に及ぼした景 受業を進める。 とが重要である。 とが重要である。 の関係について とができる。 することができる。 は立過程を理解 ととができる。 以降の歴史を理解 することができる。 義について理解 | | |
| 主意点 受業の ファク・ 受業計 | 属性・ <u>履</u> ティブラー: 画 | 「 大学では、 大学では、 | A | 世界史における意 でついて理解を深め をは果について ではまりでするです。 ではまりでするです。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、 | 義について、両国 る。その際に、西 理解を深める。以 そのような事態に る。 ・調査し、自ら考 | が洋上なっている。 と 学る宗に 民と文代リこ リーロにと ラース は 要 は と 学る宗に 民と文代リこ リーロにと ラース かんりょう ア・コース の こう と かんり こり かんり こう こくこう こく ア・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス | 及す 型 | 影響をふまえて考えた。 おと背景を学ぶこの られる。 「国と背景を学ぶこの られる。 「実務経験のな」 「および世界と日本」 「および世界と日本」 「おいて理解するこででは、「はいて理解する。」 「おいて理解するこででは、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、「ないでは、」では、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、「ないでは、」では、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」では、「ないでは、」」は、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、「ないでは、」は、これでは、「ないでは、」は、これでは、これで | 察する。 文明に及ぼした景 受業を進める。 とが重要である。 とが重要である。 の関係について とができる。 することができる。 は立過程を理解 ととができる。 以降の歴史を理解 することができる。 義について理解 | | |
| 主意点 受業の アク・ | 属性・ <u>履</u> ティブラー: 画 | Part | A | 世界史における意 でついて理解を深め をは果について ではまりでするです。 ではまりでするです。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、 | 義について、両国 る。その際に、西 理解を深める。以 そのような事態に る。 ・調査し、自ら考 | が洋上なっている。 と 学る宗に 民と文代リこ リーロにと ラース は 要 は と 学る宗に 民と文代リこ リーロにと ラース かんりょう ア・コース の こう と かんり こり かんり こう こくこう こく ア・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス | 及す 型 | 影響をふまえて考えた。 おと背景を学ぶこの られる。 「国と背景を学ぶこの られる。 「実務経験のな」 「および世界と日本」 「および世界と日本」 「おいて理解するこででは、「はいて理解する。」 「おいて理解するこででは、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、「ないでは、」では、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、「ないでは、」では、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」では、「ないでは、」」は、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、「ないでは、」は、これでは、「ないでは、」は、これでは、これで | 察する。 文明に及ぼした 受業を進める。 とが重要である。 とが重要である。 の関係について とができる。 することができる。 以降の歴史を理解 ととができる。 ことができる。 なことができる。 なことができる。 | | |
| 主意点 受業の アク・ | 属性・ <u>履</u> ティブラー: 画 | 修工 修工 修工 修工 修工 修工 修工 修工 修工 修工 | A | 世界史における意 でついて理解を深め をは果について ではまりでするです。 ではまりでするです。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、 | 義について、両国 る。その際に、西 理解を深める。以 そのような事態に る。 ・調査し、自ら考 | が洋上なっている。 と 学る宗に 民と文代リこ リーロにと ラース は 要 は と 学る宗に 民と文代リこ リーロにと ラース かんりょう ア・コース の こう と かんり こり かんり こう こくこう こく ア・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス | 及す 型 | 影響をふまえて考えた。 おと背景を学ぶこの られる。 「国と背景を学ぶこの られる。 「実務経験のな」 「および世界と日本」 「および世界と日本」 「おいて理解するこででは、「はいて理解する。」 「おいて理解するこででは、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、「ないでは、」では、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、「ないでは、」では、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」では、「ないでは、」」は、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、「ないでは、」は、これでは、「ないでは、」は、これでは、これで | 察する。 文明に及ぼした景 受業を進める。 とが重要である。 とが重要である。 の関係について とができる。 することができる。 は立過程を理解 ととができる。 以降の歴史を理解 することができる。 義について理解 | | |
| 主意点 受業の アク・ | 属性・ <u>履</u> ティブラー: 画 | 修工 ・ 第第第第第第第第の ・ 第第第の ・ 上グ ・ 過 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 | A | 世界史における意 でついて理解を深め をは果について ではまりでするです。 ではまりでするです。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、 | 義について、両国 る。その際に、西 理解を深める。以 そのような事態に る。 ・調査し、自ら考 | が洋上なっている。 と 学る宗に 民と文代リこ リーロにと ラース は 要 は と 学る宗に 民と文代リこ リーロにと ラース かんりょう ア・コース の こう と かんり こり かんり こう こくこう こく ア・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス | 及す 型 | 影響をふまえて考えた。 おと背景を学ぶこの られる。 「国と背景を学ぶこの られる。 「実務経験のな」 「および世界と日本」 「および世界と日本」 「おいて理解するこででは、「はいて理解する。」 「おいて理解するこででは、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、「ないでは、」では、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、「ないでは、」では、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」では、「ないでは、」」は、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、「ないでは、」は、これでは、「ないでは、」は、これでは、これで | 察する。 文明に及ぼした景 受業を進める。 とが重要である。 とが重要である。 の関係について とができる。 することができる。 は立過程を理解 ととができる。 以降の歴史を理解 することができる。 義について理解 | | |
| 主意点 受業の | 属性・ <u>履</u> ティブラー: 画 | (第字響第第第第第第第第第第第第第第第第 (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) | A | 世界史における意 でついて理解を深め をは果について ではまりでするです。 ではまりでするです。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、 | 義について、両国 る。その際に、西 理解を深める。以 そのような事態に る。 ・調査し、自ら考 | が洋上なっている。 と 学る宗に 民と文代リこ リーロにと ラース かんり かんしょう | 及す 型 | 影響をふまえて考えた。 おと背景を学ぶこの られる。 「国と背景を学ぶこの られる。 「実務経験のな」 「および世界と日本」 「および世界と日本」 「おいて理解するこででは、「はいて理解する。」 「おいて理解するこででは、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、「ないでは、」では、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」では、「ないでは、」では、「ないでは、「ないでは、」では、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」では、「ないでは、」」は、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、」は、「ないでは、「ないでは、」は、これでは、「ないでは、」は、これでは、これで | 察する。 文明に及ぼした景 受業を進める。 とが重要である。 とが重要である。 の関係について とができる。 することができる。 は立過程を理解 とことができる。 以降の歴史を理解 することができる。 義について理解 | | |

| | | 4週 | | | | | | | | | |
|--------|-------------|-------|-------------------------------------|-------------|---|--|----|---------|-------|-----|---|
| | | 5週 | | | | | | | | | |
| | 6 | | | | | | | | | | |
| | | 7週 | | | | | | | | | |
| | | 8调 | | | | | | | | | |
| | | 9週 | | | | | | | | | |
| | | 10ì | | | | | | | | | |
| | | 11ì | | | | | | | | | |
| | 4thQ | 12ì | | | | | | | | | |
| | | 13ì | | | | | | | | | |
| | | 14ì | 周 | | | | | | | | |
| | | 15ì | 周 | | | | | | | | |
| | | 16ì | | | | | | | | | |
| モデルコ | アカリニ | トユ | ラムの賞 | 智 | 内容と到達 | 目標 | | | | | |
| 分類 分野 | | | | 学習内容 | 学習内容の到達目標 | | | | 到達レベル | 授業週 | |
| | | ・社会社会 | | | | 民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共 存することの重要性について考察できる。 | | | | 3 | |
| | 人文・社 科学 | | j | | 近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む 世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。 | | | | 3 | | |
| | | | | 地理歴史的 分野 | 帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。 | | | | 3 | | |
| 基礎的能力 | 143 | | |))±1 | 第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。 | | | | 3 | | |
| | | | | | | 19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。 | | | | 3 | |
| | | | 技術者倫理 (知的財産、 | | 技術者倫理 (知的財産、 法令順守、 | 国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。 | | | | 3 | |
| | 工学基礎 | | 基礎 法令順守、 持続可能性 を含む)およ び技術史 | | 法令順守、 持続可能性 を含む)およ び技術史 | 過疎化、少子化など地方が抱える問題について認識し、地域社会 に に貢献するために科学技術が果たせる役割について説明できる。 | | | | | |
| 評価割合 | | | | | | | | | | | |
| | 試 | 験 | | | 表 | 相互評価 | 態度 | ポートフォリオ | その他 | 合語 | † |
| 総合評価割る | ⇒ 10 | 100 | | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 | 0 |
| 基礎的能力 | 80 | 80 | | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 80 | |
| 専門的能力 | 10 | 10 | | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 | |
| 分野横断的制 | 能力 10 | 力 10 | | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 | |